

## 建設コスト膨らみ 重くのしかかる負担金

6年後の平成34年北陸新幹線（東京～敦賀）開業に向け、建設主体である鉄道建設・運輸整備支援機構は県内工事着工率が5割を超えたと発表。県内の工事区間は石川県境と敦賀を結ぶ76キロで約半分はトンネルとなる。芦原、福井、南越（武生）、敦賀の4駅舎は6年後には完成する。開通後JRの路線使用料として運輸機構に入る賃借料と国、県、沿線自治体の負担金で新幹線工事は行われ、今後県の負担する多額の長期公債発行は免れない。

中部縦貫道路は来年以降毎年200億円を超える予算が必要となり、北陸自動車道福井北インターから岐阜県境までの区間が全線開通する予定。北ICから大野までは今年度全線開通し、残るは県境までの35キロ。6年後の全線開通までに今後約1200億円が費やされる。近年土木建設の旺盛な需要にもよるが、5年前までとは違い建設コストが建設資材価格や労務単価、消費税増税などにより格段に引き上がり、計画当初の予算より倍増の傾向にある。なぜ敦賀までの延伸が遅れ金沢までの開業が先行したか。また中部縦貫道路においては全長184キロに1兆2000億円の巨費を投じ、平成20年に全面開通した東海北陸自動車道の開通に合わせ白鳥西ICまで完成した時期に、中部縦貫道の工事を進められなかったのか。10年も遅れ工費は膨らむ。福井県の政治力が問われる。



東海北陸道は名神高速一宮IC～北陸自動車道小矢部砺波ICに直結、さらに能越自動車道へと通じる。敦賀までの県内区間北陸新幹線、中部縦貫自動車道全線開通が遅れたことにより今後も財政負担が重くのしかかる。

今回最も注目された  
東北と7大都市の参院選

井の聖地福井県が「福井県」  
その陰で泣きを見た人たち

福井厚生病院に判決下る  
営利主義に走ったツケが…

知らぬは  
日本人だけ？

特別養子縁組が  
少ない日本

幸福の国  
ブータン薬物汚染

沖縄県民は  
納得いかない

治安最悪の中  
リオ五輪開催